

天郷醸造所「初」蔵開き
ついに幕を開けた

挑戦



1 開式の言葉とともに来場者へ感謝を伝える中山雄介さん。2 蔵開き限定の上野焼特別ボトルを渡す中山さん。3 町外からお酒を求めて来場。4 町内の飲食店が数多く出店し、にぎわう会場。5 初めて味わうお酒に舌鼓を打つ来場者。6 お酒を買い求め、できた長蛇の列。7 お酒も進み会話も弾む来場者たち。8 「福智町にこんな素晴らしい場所ができて嬉しい」と語る町内の来場者。9 蔵開き限定の上野焼お猪口を販売する本村さん。10 自販売ブースへと立ち、お酒を販売する中山さん。

かつて福智が直面した大きな壁

数多くの「挑戦」によって課題を乗り越えてきた福智町。新たに迫る壁を越えるべく、町は今も挑み続けています。

目指す「持続可能な福智町」

かつて昭和時代に華やかな炭都の一角として名を成した筑豊炭田。旧3町は「筑豊に5円以下の貨幣はない」と言われるほどの好景気に湧く炭鉱町でした。しかし、昭和40年代後半から、産業用のエネルギーは石炭から石油と転換し、炭鉱は次々と閉鎖。その後、旧3町は新たな活路を見出すため、炭鉱にかわる産業を模索しますが、成果を上げられず町の倒産を意味する財政再建団体へと転落しました。しかし、旧3町は、住民によるボランティア団体の活動や行政の徹底的な経費削減など町全体で取り組んだ強い意志によって計画より早く再建団体を脱却することができました。

平成18年に、旧3町は財政再建のため、市町村合併。今もなお、町の課題は多岐にわたり、人口に關しては今後も減少が続く、国立社会保障・人口問題研究所が推計した令和32年（2050年）の人口



↑ 財政再建のため、職員の手で道路補修を行う姿は注目を浴びた。

は、現在の人口の半数に近い12,586人になると予測。財政面では、令和13年度以降、基金※を取り崩すしかない将来が想定されるため、令和12年度までに「持続可能な福智町のあるべき姿」を示すことが急務となっています。私たち一人ひとりが今迫る大きな壁を乗り越えるため、町の課題に向き合い、行動することが求められています。

※ 基金：特定の目的のために使う資金のこと、家計でいう貯蓄。

特集「挑戦」福智の未来を切り拓くために—

この日を迎えた感謝を込めて

2023年12月に福智町とともに「クラフトサケ醸造所誘致事業」への挑戦を始めて2年。ついに天郷醸造所の初蔵開きが11月23日に行われました。この挑戦を支えてくださったかたがたに、これまでの感謝とこの日を無事に迎えられることを祝った直会。初蔵開きではこの日を記念に特製上野焼お猪口や上野焼限定ボトルの限定販売、中山さんの弟・中山啓さんらによる雅楽の生演奏など、来場者約500人は、普段味わえない優雅な空間で福智町の豊かな自然と恵みを生かしたお酒を堪能しました。

この日、天郷醸造所は福智町の魅力を生かし、地域活性化を目指したまちづくりへの「挑戦」を新たにスタートさせました。

天郷醸造所で新たな「挑戦」が始動。福智で初の蔵開きが行われました。支えてくれた方々に感謝を込めて祝った直会の様子をご紹介します。

Interview 天郷醸造所 代表取締役 中山 雄介さん

これまでともに歩んできたみなさん、そして仲間たちとこの日を迎えることができとても嬉しく思います。初蔵開きでは、「また飲みたい」や「楽しみにしてたよ」などの温かいお言葉をいただき、改めて福智町でこのプロジェクトに挑戦して良かったと実感

ています。そして、蔵開きを通じて、みなさんが天郷醸造所のお酒に込めている期待や希望も感じました。そんな思いを裏切らないよう、これからも仲間たちと切磋琢磨しながら日本が誇る伝統的酒造りを受け継ぎお酒と故郷の魅力を世界へと広げていきたいです。

